

## 第41回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム人文学・社会科学賞～

<順不同、敬称略>

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

### 入賞（賞金 100 万円）

#### 「Google SEO のメディア論: 検索エンジン・アルゴリズムの変容を追う」

（書籍発刊：青弓社，2025 年 3 月）

宇田川 敦史 武蔵大学社会学部メディア社会学科 准教授

本書は、博士論文をもとにした単著で、検索アルゴリズムの「ブラックボックス化」や「権力」が、エンドユーザーのニーズやウェブマスターとの相互作用を通じて構成された結果であることを実証的に示した、独創的な研究である。Google など検索エンジンのアルゴリズムが、インターネット初期から 2020 年にかけて、どのように変容してきたのかを、「SEO（検索エンジン最適化）」にまつわる言説の歴史から分析する。複数のアクターによるダイナミズムに焦点を当て、デジタル・プラットフォームの権力構造の複雑性を論じている。インフラ化している検索エンジンの歴史的・社会的な構築のプロセスを、メディア論の視座から学際的に捉えなおす刺激的な試みといえる。完成度の高い研究書であり、SEO/SEM の実務家の方にも有用な一冊である。

### 入賞（賞金 100 万円）

#### 「現代の諜報・捜査と憲法－自由と安全の日独比較研究」

（書籍発刊：法律文化社，2025 年 4 月）

小西 葉子 関西学院大学総合政策学部 専任講師

本書は、現代国家による情報技術を駆使した情報収集活動に着目し、日独における規制手段の分析を通じて、憲法上の権利の実効的保障のための統制システムの構築を果敢に試みた、優れた研究書である。情報技術の加速度的発展に伴い、犯罪の形態も常に変化を遂げており、捜査や諜報のあり方も、また変化を余儀なくされている。そのような状況を踏まえ、国家による情報収集活動における自由と安全の衡量のあり方についての基本構想を示したことを、高く評価する。

### 入賞（賞金 100 万円）

#### 「21 世紀の市場と競争－デジタル経済・プラットフォーム・不完全競争」

（書籍発刊：勁草書房，2024 年 6 月）

安達 貴教 京都大学大学院経営管理研究部・大学院経済学研究科 教授

GAFAM といった巨大企業が存在するデジタル経済において、市場原理からすると、独占企業が出現すれば市場は歪む。しかし、2000 年のマイクロソフト分割訴訟でも同じことがいえるが、Facebook が強すぎるという理由で企業を分割すれば、それがユーザーにとって良いことかという疑問を投げかける。巨大だからこそ、ネットワーク効果でいろいろな人とつながり、便利だという面もある。本書は、「不完全競争市場こそがスタンダードなのだ」という切り口から迫っている。読み物の体裁を備えているが、独自の分析枠組みを果敢に用いながら、独占的なプラットフォームの出現によって、競争政策がラジカルな変容を迫られていることを明らかにした良著である。議論の分かれるところであるが、著者は過剰規制気味の規制当局によって、日本が IT 革命に乗り遅れた要因があったことを示唆している。



## 奨励賞（賞金 50 万円）

### 「Does online communication reduce loneliness among middle-aged and older adults living alone? Focusing on intergenerational communication」

(Wiley-Blackwell, Geriatrics and Gerontology International, 2025 年 6 月)

村山 陽 東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加とヘルシーエイジング  
研究チーム 研究員（専門副部長）  
山崎 幸子 文京学院大学人間学部心理学科 教授  
長谷部 雅美 聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科 准教授  
小林 江里香 東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加とヘルシーエイジング  
研究チーム 研究部長

本論文は、独居の中老年・高齢者を対象に、オンラインコミュニケーションと孤独感および精神的健康との関連を、交流相手の属性別に精緻に検討した研究である。構造方程式モデリングを用いて同世代・異世代・未面識者を区別して分析し、異世代交流を伴うやり取りは孤独感の低下と精神的健康の良好さと関連する一方で、未面識者とのやり取りは孤独感を高め得ることを示唆している。論文としての完成度は高く、政策的含意も明確である。

## 奨励賞（賞金 50 万円）

### 「サイバネティック・アバターの法律問題」

(書籍発刊：弘文堂，2024 年 12 月)

松尾 剛行 桃尾・松尾・難波法律事務所 パートナー弁護士  
慶應義塾大学 特任准教授

本書は、「サイバネティック・アバター（CA）と法」の連載を単行本としてまとめたものである。CA に関連する最新の法的課題について幅広く検討を加えた上で、CA 法においては、現実世界と仮想世界の間で主体や客体のアイデンティティを、どのような場合にどこまで認めるべきかなど、様々な意味におけるアイデンティティの問題が溢れていると現状分析している。CA がもたらした新しい法的課題についての、さらなる検討が期待される。